

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2019.12) 令和元年度:27-28.

在宅看護における転倒予防のために必要な評価の視点-在宅看護で用いる転倒スコアの作成にむけて-

中島 綾菜, 渡 日菜

在宅看護における転倒予防のために必要な評価の視点

- 在宅看護で用いる転倒スコアの作成にむけて -

中島 綾菜 渡 日菜
(指導：山根由起子)

諸言

高齢者の要介護要因には転倒による骨折が多い¹⁾。転倒後は、再転倒の恐怖で活動範囲が狭小化し、虚弱や身体活動の制限により生活機能が低下する。そのため、転倒は高齢者の生命や日常生活動作、生活の質に重大な影響を及ぼす因子とされている^{2) 3)}。これらより、高齢者の転倒予防は重要である。病院では、転倒転落スコアシート(以下スコア)を用いた転倒予防や、その信頼性・妥当性についての研究は進んでいるが、在宅では在宅用のスコアの開発や妥当性を検証している研究がない。また、病棟では看護師歴により転倒予防への認識やアセスメントに差が生じていた⁴⁾。そこで、本研究の目的は、在宅での転倒予防に必要な訪問看護師の評価の視点を明確にする。

方法

用語の定義:1)訪問看護師歴が長い人(以下n):訪問看護師歴が5年以上の看護師。2)訪問看護師歴が短い人(以下m):訪問看護師歴が4年以下の看護師。3)パス図:因果関係にある変数間の仮説的関連と関係の流れを表す図。

研究対象:上川地方の訪問看護ステーション(以下ST)3か所を選択し、各STで所長が訪問看護師歴に差がある看護師を2名選定した計6名を対象とした。

データ収集方法:データ収集は2019年8月に実施した。調査は、森田ら(2010)の転倒アセスメントスコアシート「改訂後シート」⁵⁾に宮越ら(2010)の転倒予防チェックリスト⁶⁾から抽出した7項目を追加した自記式質問紙調査と約25分の半構造化面接を行った。面接は、対象者の承諾を得てICレコーダーに録音した。

データ分析方法:得られたデータから逐語録を作成し、文脈単位でコード化を行った。得られたコードの内容の類似性でサブカテゴリ、さらにカテゴリと抽出度を高め分析した。

倫理的配慮:旭川医科大学倫理委員会承認を得て実施した(承認番号:19038)。対象者には、研究目的、方法、倫理的配慮、個人情報保護を保証することを説明した。また、研究参加への同意、同意撤回は自由であり、同意撤回による不利益はないことを文書並びに口頭で説明した。

結果

対象者の属性:1)n:訪問看護師歴(看護師歴)が15(25)年、12(19)年、5(15)年の3名。2)m:訪問看護師歴(看護師歴)が4(20)年、3(31)

年、2(20)年の3名。

スコアの合計点はnm間で1~5点の差があったが、危険度はIIで差がなかった。

スコアで情報把握の差があった項目は、「貧血」「降圧利尿剤」を含む10項目で、「降圧利尿剤」の1項目以外は、nが情報を得ていた。

今回提示したスコアに追加したい項目は、nでは17コード、5カテゴリ、mでは9コード、4カテゴリであった。共通していたのは「ベッド環境」「福祉用具の使用状況」「転倒しやすい環境」「サポート体制」の4カテゴリであったが、mは「転倒しやすい環境」「サポート体制」などのコードが少なかった。

病院と在宅の違いは、病院の特徴では16コード、7カテゴリ、在宅の特徴では11コード、5カテゴリであった。病院では「転倒予防の対策がある」「環境が整っている」、在宅では「状況把握と対策の遅れ」「転倒しやすい環境」がカテゴリとして挙げられた。

住宅で転倒が起きやすい場所は、nm間に差がなく、「段差があるところ」「ベッドサイド移動時」「お風呂場」が上位に挙げられた。

どのような療養者に転倒予防が必要なのかは、「歩行が不安定な要素」「高齢による機能の衰えがある人」が共通していたが、mは療養者の生活習慣の背景や環境の視点がなかった(表1)。

表1 どのような療養者に転倒予防が必要か

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	コード数
歩行が不安定な要素がある	身体症状が出現して歩行がうまくできない人	若くても歯痛や痺がある人	1
		足のむくみがある人	2
		関節が痛い人	3
	服薬を飲むことでバランスを保持できない人	活動量低下し、昼間に寝て夜醒れないことで服薬使用する人	4
		服薬を飲んでふらつく人	5
		服薬を飲み、トイレに行くときやズボンの裾袋で転ぶ人	6
	疾患によって歩行状態が不安定な人	脳血管疾患によって歯痛がある人	1
		貧血がある人	2
		パーキンソン病患者	3
		整形疾患を有する人	4
		オペされている人	5
		突進歩行	6
	歩行状態が不安定な人	すり足	7
足がきちんと上がっていない		8	
小股で歩く		9	
ふらつく		10	
服薬を飲むことでバランスを保持できない人		11	
高齢で夜間に尿を飲む人		12	
長時間の同一姿勢から行動を起こすとき	長時間の同一姿勢から行動を起こすとき	13	
	長時間の同一姿勢から行動を起こすとき	14	
高齢による機能の衰えがある人	高齢者	1	
	高齢による筋力低下	2	
	認知力が低下している人	3	
	視力低下によって視覚からの情報が減少し、危険を察知できない人	4	
	栄養不良によって体力が低下している人	5	
	高齢による筋力低下がある人	6	
自宅環境が整っていない人	下半身の筋力低下がある人	1	
	筋力低下している人	2	
	認知力が低下している人	3	
	認知力で周りに気を取られる人	4	
	視覚からの情報が減少し、危険を察知できない人	5	
	視力低下がある人	6	
衣類によって転倒リスクが生じている人	自分で着かないような環境を整えることができる人	1	
	着やすいものがある家	2	
	ものがいっぱいありすぎる家	3	
	部屋を片付けられない人	4	
	履きやすいものがない家	5	
	使うものが低い位置にありすぎる家	6	
トイレに頻回に行く人	家の環境が本人の身体状況に適していない人	7	
	部屋の段差や浮いているところ	8	
	部屋の段差や浮いているところ	9	
トイレに頻回に行く人	その人の身に着ている衣類が転倒につながる人	1	
	トイレが頻回にある人	1	

